

十五 『迂齋文集』について

長野 美香

・古河市と稲葉迂齋のかかわり

先年、茨城県立古河歴史博物館の展示物の中に、偶然『迂齋文集』とその続編を見つけた。茨城県古河市はかつての古河藩の城下町である。宝暦十二（一七六二）年に、唐津より土井利里が七万石で入封し、以後廃藩まで土井家による藩治が続いた土地柄である。『迂齋文集』の著者・稲葉迂齋は、正徳五（一七一五）年から唐津藩土井家三代に仕え、その三代目が土井利里であった。それゆえ、迂齋に関する手がかりが何らか遺されているのではないかという期待はあったし、その可能性を探りに古河へ赴いたのではあったが、しかし、実際に『迂齋文集』十巻十冊、『續集』四巻四冊、『別集・附録』一冊、『迂齋先生卒年文稿』一冊、計十六冊ものの写本が現存し、しかも博物館にそのうちの一冊が展示されていたことは驚きであり、望外の喜びであった。

ちなみに、迂齋自身は土井家が古河へ転封になる二年前に没しているが、唐津時代に迂齋が尽力して成った藩校盈科堂は、土井家転封に伴い、そのまま古河に移転している。同書は、古河藩家老職であった鷹見家伝来の蔵書群に含まれていたものである。鷹見家は、家老にして蘭学者の鷹見泉石を輩出した名家であり、泉石については渡辺崋山の代表作「鷹見泉石像」（国宝）が知られている[※]。迂齋の著作も、このように文

運盛んな鷹見家だからこそ伝存し得たのであろう。

※泉石は、迂斎の仕えた土井利里より三代のちの土井利位に仕えた。藩主の大坂城代時代、大塩平八郎の乱において藩主を補佐して功績を残した。また泉石は蘭学者としてもすぐれ、土井利位著『雪華図説』の刊行を助けるなどしている。『雪華図説』は、土井利位が長年にわたる雪の結晶の観察の末にまとめた研究書である。（『藩史大事典』第二巻・関東編、「古河藩」の項、参照。雄山閣、一九八九年。）

・『迂齋文集』の特色

以下、茨城県立古河歴史博物館蔵本をたよりに、『迂齋文集』とその続編について、成立・特色を考えた。同博物館像の迂斎著作は計十六冊である。内訳は以下のとおりである。（題名は外題を採った。）

- 第1冊『迂齋文集 一』 第2冊『迂齋文集 二』 第3冊『迂齋文集 三』
- 第4冊『迂齋文集 四』 第5冊『迂齋文集 五』 第6冊『迂齋文集 六』
- 第7冊『迂齋文集 七』 第8冊『迂齋文集 八』 第9冊『迂齋文集 九』
- 第10冊『迂齋文集 十終』
- 第11冊『迂齋別集 附録 全』 第12冊『迂齋續集 一二三四 終』
- 第13冊『迂齋先生卒年文稿』

これら十三冊は、迂斎の著作全体から見て、同じ性質をもつ著作群と考えることができる。それは、これらが迂斎自身の手になる漢文体の書であるという点において、である。大別すれば、『迂齋文集』十巻十冊、『迂齋別集 附録』一卷・附録合一冊、『迂齋續集』四巻一冊、『迂齋先生卒年文稿』一卷一冊の四書であるが、この四書全体が『迂齋文集』と考えられるべきであって、『別集』や『續集』などは、『迂齋文集』

の『別集』、『續集』であることは言うまでもない。しかし、ここでは当面この四書を分けて、それぞれについて考えていきたい。

まず、『迂齋文集』全十巻である。『迂齋文集』の編纂方針については、『迂齋文集』巻一卷頭に目録が示されており、各巻毎に著作の種類が掲げられている。

巻一…詩 巻二…上書 巻三…序跋 巻四…書 巻五…贈答 巻六…十…雜著

巻一に付された序は、寛延元（一七四八）年二月、迂齋の長男・稻葉廓齋正直による。これは狭義の『迂齋文集』十巻についての序である。そこには「家弟正信恐其久而廢失」蒐輯之「更與正直」考訂之「謹藏」家」とある。また、同じ年に付された黙齋の識語にも、迂齋の著作のうち「僅存者盡于故篋既數十年正信兄弟竊恐其終廢壞以不傳因謹録之以藏于家」とある。この年、迂齋は六十五歳、実際、『迂齋文集』十巻は延享四（一七四七）年までの著作を収めている。

ちなみに、黙齋の編集着手の前年である延享四（一七四七）年七月下旬、迂齋自身の手によつて『稻葉家譜』が著されている。同書は迂齋の事績を知る上で貴重な史料であるが、延享三（一七四六）年二月、迂齋六十三歳、浜町の自宅の焼失、同年五月、新居再建の記事で終わっている。この『稻葉家譜』は、築地本願寺あたりに端を發した火災で過去の書付を失うなどした迂齋が、早急に備忘として書き付けたものであることが想像される。火災から二年、十七歳の黙齋が、「恐其久而廢失」れて、迂齋の長年の著作をまとめ始めた背景にも、単に「蠹」のみでなく、この火災の物理的・心理的影響があつたかもしれない。

次に『迂齋別集』は、寛延元（延享五）（一七四八）年を下限として、おおよそ『迂齋文集』と重なる時

期に書かれた雑著類である。ちなみに、『迂齋別集』は「附録」として「迂齋答問」を付している。「迂齋答問」は、それ自体に年月を示す書き込みはないが、『處士越復傳』には、元文五（一七四〇）年、黙齋九歳の折り、「講_二解經語_一詰_二難疑目_一」として、「侍_二父講筵_一退講_二一章或半章_一。集_二與_レ父詰難之語_一題曰_二迂亭答問_一。」（当時、迂齋五十七歳）という記事が見える。ここでの書名は「迂亭答問」である。また、『稻葉黙齋先生傳』にも同じ年の記事があるが、そこでの書名は「迂齋答問」であり、『迂齋文集』と同名である。いずれにせよ、「附録」はこの折りの問答であるが、他の著作と趣を異にするので、あえて「附録」として採録したものであろう。

一方『迂齋續集』は、末尾の一文に宝暦元（一七五一）年と記されている。この年、迂齋六十八歳、黙齋二十歳である。また、十三冊目の『迂齋先生卒年文稿』は、言うまでもなく迂齋卒年の著作である。迂齋が没したのは宝暦十（一七六〇）年十一月十日であるが、同書の巻末には、十一月九日、死の前日の迂齋の言葉が「易實語録」として掲載されている。識語は宝暦十年冬、長男廓齋正直によるものであるから、成立は迂齋の死の直後と考えてよいであろう。

ところで、これらの一連の巻のうち、『迂齋續集』までは、間断なく宝暦元（一七五一）年までの著作を採録しているのであるが、この翌年から迂齋没年の宝暦十（一七六〇）年以前の八年間に関しては完全に欠落している。迂齋の他の著作を確認しないと断定はできないが、あるいは、この八年間分もまた火災によって失われたのかもしれない。なぜなら、宝暦十（一七六〇）年二月六日に神田旅籠町辺で発生した火災によって、迂齋は自宅を再度焼失しているからである。迂齋は、火災の直前一月六日に発病しているので、この罹災はかなりの肉体的・精神的苦痛であつただろう。

『迂齋先生卒年文稿』には、「病中漫記」として、発病以後・火災以前と見られる小文が七編掲載されて

いる。これが、宝暦元（一七五一）年に著作が途切れて以来最初のものであるが、しかし、また火災以前には、実にこの七編の小文以外見出せないのである。この七編の次にあたる火災直後二月二十六日の一文には、「予病幾^{シト}瘥^ヘ未^レ復^レ常又遭^ニ火家屋盡^ク為^ニ灰燼^ト」と記されている。直前までの筆勢を考えれば、この欠落した八年間にも相当量の著作をなしたのではないかと想像される。火災で失われたものとすれば、名物といわれた江戸の火事が実に容赦ない惨事であったことが窺われるが、場合によっては、今後この八年間の著作が見出されるかもしれない。以上は臆測にすぎない。

とはいえ、『先君子行實』に掲げられた迂齋の著作書目などから見ても、広義の『迂齋文集』は、やはり上掲の四書十三冊で完結していると思われるべきであろう。ちなみに、現在『迂齋文集』の所在を確認できるのは、茨城県立古河歴史博物館のほかには、国立国会図書館・鶚軒文庫、および新潟県新発田市立図書館の旧新発田藩蔵本である。このうち国会図書館・鶚軒文庫は『迂齋文集』十卷三冊、『別集』一卷一冊のみであるが、新発田市立図書館は広義の『迂齋文集』以外にも、迂齋の著作をいくつか収蔵している。これらについては、今後、古河県立歴史博物館蔵本との比較検討を行う予定がある。

・茨城県立古河歴史博物館蔵『迂齋文集』目録

以下は、上述の茨城県立古河歴史博物館蔵本の目録である。各巻ごとに外題を示し、そのうち各内題ならびに各文書名を列挙した。なお、『迂齋文集 一』、『迂齋別集 附録 全』、『迂齋續集 一二三四 終』、『迂齋先生卒年文稿』原本の巻頭にはそれぞれ目録が付されているので、まずそれを書き起こした。ただし、同目録には年月日などの情報が欠けているため、本目録では、（ ）内に各文の見出し（題名）を、また記載のあるものに関しては年月日などを付して掲載することとした。

『迂齋文集 一』

家大人文集序

吾 老大人発見_二于_三宅先生_一中親_レ炙_レ于_三佐藤先生_一先生没後復從_二于_三宅先生_一受学_二于_三兩先生_一數年
其他與_二同学_一切磋亦有_レ年常以_二講_レ書談_一道為_レ務矣是以於_二詞章記文之事_一則更不_レ留_レ意也雖_レ然
交接之間或答_二人書_一或應_二人之需_一及又有_レ適_レ意則漫賦_レ詩之類幾至_レ成_レ快也適家弟正信恐_二其久而
廢失_一蒐_二輯之_一更與_二正直_一考_レ訂之_一謹藏_レ家云爾

延享戊辰春二月男正直謹序

稻葉家譜

延享戊辰之春男正直謹識

稻葉十左衛門墓

稻葉鐵次郎越智正直立

稻葉先生文集目錄

迂齋先生文集卷之一

詩

三月偶感（三月盡偶感）

遊江州石山寺二首（四月四日遊江州石山寺即興 丁酉 二）

東寺二首（遊東寺即事 丁酉）

（同）

東山二首（東山 丁酉）

（同）

金閣寺即興（金閣寺 丁酉）

四月餞別三宅先生（四月十九日朝餞別三宅先生 丁酉）

偶作（偶作）

題金錢花（題金錢花得雨喜 庚子）

藝州偶作（藝州洋偶作 庚子）

防州灘（防州灘 庚子）

朝晴（朝晴 庚子）

防州船中憶古鄉（防州舟中憶古鄉 庚子）

長州漫成（長州洋漫成 庚子）

豫州海上吟（豫州海上吟 庚子）

賡知耻之韵（賡知耻之韵 庚子）

下關瀨（下關瀨 庚子）

題潮（題潮 庚子）

唐城偶感（唐城偶感 庚子）

庚子漫成（漫成 庚子）

西州憶故鄉偶作二首（西州憶故鄉偶作）

（同）

偶作（偶作）

與三宅先生別于海安寺（与三宅先生別于海安寺）

拜直方先生（壬寅八月望日恭拜直方先生）

十五夜偶作（十五夜偶作）

望拜顯祖考忌日（八月廿七日望拜顯祖考忌日 壬寅）

遊西濱二首（遊西濱 壬寅）

（同）

賡邵子韻二首（適讀邵子安分吟有感竊賡其韻 壬寅 一二）

（又賡其韻以慕晋士）

偶感（偶感 壬寅）

題水仙（題水仙 壬寅）

題松（題松 壬寅）

拜聖廟二首（拜聖廟有感二首 壬寅）

訪見借隱人正固（訪見借隱人正固）

轎裏有感（轎裏有感 壬寅）

過御油驛示一門生二首（過御油驛示一門生 壬寅）

（同）

坂下偶作（坂下偶作）

感偶（感偶）

憶先師偶作（仲秋望日憶先師偶作 乙巳）

家君遠諱（家君遠諱 乙巳十一月十日）

乙巳冬至偶感（乙巳冬至偶感）

漫成（漫成）

丙午九月十三夜（丙午九月十三夜野田永井佐藤之三丈會于愚亭時月明星稀情話闌々因賦鄙詞以述其意）
拜亡友與正尹之墓（丙午九月廿五日亡友與正尹君大祥忌拜其墓）

丙午游品川東海寺（丙午十月十七日与野田兄永井兄游品川東海寺有感卒賦）

賡剛齋君新歲之吟（賡剛齋君新歲之吟）

（同）

丁未先師靈筵有感（享保丁未八月望日拜先師之靈筵竊有感）

丁未冬題乞人之松（享保丁未之秋野田丈游總上州姉崎村過小松原茲游矮舍其側有卓立孤松風影尤奇因問馬僕此舍誰舍此松誰松馬僕笑曰此舍乞人之舍此松乞人之松也野田丈歎息嗚呼此奇松如在顯家之苑人之賞觀亦不之矣猶人之有才德在下位世終不能聞也然唯之松也美德囂囂不為乞人損其德凡天物不違於天之美者亦如此予聞之竊有感自筆記綴小詩属其後）

丁未冬至（享保丁未冬至）

春日即事（春日即事）

戊申之秋喪心友小杉君（戊申之秋喪心友小杉以長君痛哭之餘宣鄙情）

己酉正月望讀節要（享保己酉正月望日心友集會于茅屋其共讀朱子節要有感因賦）

己酉賡酒井修敬之韵（酒井修敬享保己酉秋移居於予舍之側且以詩示予因卒賡其韵）

觀紅葉有感（觀紅葉有感 己酉）

題盆水（卒題盆水）

庚戌元旦自警二首（庚戌元旦將試毫而不知文不識詩只信口成數句聊述鄙懷以自警）

（因警）

五月游兩國橋上（庚戌五月与野田野沢二君暫游于武總兩國橋上時雲盡月清野田君云澄景良好看矣人但難值昇平之時何屑々於外誘以不知此樂耶予有感因賦）

十三夜偶吟（庚戌十三夜偶吟）

拜亡友奥氏之墓（庚戌九月廿五日拜亡友奥氏之墓）

庚戌立春卒賦（庚戌立春卒賦 十二月廿九日）

和長島侯高韻二首（謹奉和長島大守之高韻）

（同）

題雪（題雪 壬子）

與旧友友別大坂三日（与旧友別大坂）

（同）

（同）

賀利實侯病愈（賀利實侯病愈 壬子）

癸丑試毫（癸丑試毫）

春雪漫成（春雪漫成 甲寅正月）

遭吾君利實侯之喪即事（十一月下旬遭吾君利実公之喪即事）

丁巳歲旦拜利實侯墳（丁巳歲旦拜謁利實侯之墳）

和中村君之韻（中村君有新年之佳作山宮氏賡其韵予亦效顰漫味其韻云 己未）

讀節要憶永井兄二首（於埜田兄之亭讀節要因憶亡友永井兄 庚申八月廿日）

（同）

賡幸田君之韵二首（賡幸田君之韵 辛酉）

（同）

賡增山公致仕之高韻（恭奉賡增山公致仕高韵）

感偶（感偶）

拜矢作氏之墳（癸亥三月十五日詣本所猿江慈眼寺拜矢作氏某君之墳）

陪游致仕增山公之別莊（癸亥閏四月陪游致仕增山公之別莊）

癸亥拜謁利勝公墳（我君烈祖古河城主寶地院故拾遺從四位下兼大倉令土井侯今日適及千百年之忌辰于時寬保癸亥七月十日也家臣稻葉正義拜其碑稽（稽）首謹述微意其詩云）

藝州西条即興五首（藝州西条路中即興甲子初夏）

（第二）

（第三）

（第四）

（第五）

四十八坂即事二首（同四十八坂即事）

（第二）

周防七曲即興（周防七曲即興 甲子）

和利延公之高韻二首（恭奉賡利延公之高韻 甲子）

和利延公松浦川高韻（恭奉廣利延公松浦川之高韻 甲子）

陪従利延公田獵（甲子五月十一日吾君利延公田獵于封内僕亦陪従焉因賦一章）

憶亡兄廣堯夫之韻（甲子七月五日於肥前唐津憶亡兄竊廣堯夫之韻）

乙丑待諸賢來訪（乙丑上元日待諸賢來訪）

遊墨水次平清慎韻二首（遊墨水次平清慎之韻 乙丑）

（同）

次水原保明之韻（同次水原保明之韻）

冬至漫成（冬至漫成 乙丑）

廣佐久間君之韻（暮春佐久間君有佳作廣其韻）

丁卯孟夏遊真間（丁卯孟夏日泛舟葛西邊与渡邊信統信貞矢作勝美及男正信同遊于國府臺真間下）

遊真間路中即興二首（同路中即興）

（同）

題弘法寺楓（題真間山弘法寺楓）

總寧寺（總寧寺）

國府臺（國府臺）

丁卯游品川東海寺（丁卯四月廿七日與野田剛齋翁同步游于品川東海寺）

訪亡友永井君墳墓（訪亡友永井君墳墓）

迂齋先生文集卷之二

上書

上利實侯（上利實侯）

劄子（劄子）

對利實侯問目（對利實侯之問目 壬寅十月）

對利實侯問祭祀儀劄子（對利實侯問祭祀儀之劄子）

上利実侯（上利實侯）

甲辰對利實侯問目劄子（對利實侯之問目 甲辰夏五月）

上利実侯（上利實侯 甲辰五月）

甲辰劄子（劄子 享保甲辰七月十三日）

乙巳劄子（劄子 享保乙巳十月十六日）

己酉劄子（劄子 享保己酉十月十八日）

上利実侯（上利實侯 享保庚戌十二月十五日）

上利實侯書并追幅上利實侯（上利實侯 享保辛亥四月廿二日）

（追副）

劄子（劄子 八月十三日）

上利実侯（上利實侯 享保甲寅十二月十八日）

上利延侯（上利延侯 寛保癸亥九月廿六日）

『迂齋文集 三』

迂齋先生文集卷之三

序 跋

送加藤氏帰筑州序（送加藤氏帰筑州序 正徳乙未春三月）

王学論談序（王学論談序 正徳丙辰孟春）

贈時田国正序（贈時田国正序 享保甲辰秋七月）

送奥正岑序（送奥正岑序 享保乙巳孟春月）

送久米貞固帰唐津序（送久米貞固帰唐津序 享保丁未三月十三日）

與小杉善長字序（與小杉氏字序 享保戊申秋）

送山宮維深游京師序（送山宮維深游京師序 并詩 享保癸丑十月）

并詩

送渡邊高遠行棚倉序（送渡邊高遠行棚倉序 享保甲寅仲秋）

送山宮維深適羽州序（送山宮維深適羽州序 享保乙卯夏五月）

贈男正直序并戒（與男正直序并戒）

送或人帰羽州序（送或人帰羽州序 元文丁巳夏五月）

與武井敬勝字序（與武井敬勝字序 元文丁巳秋八月）

贈岡野進三序（贈岡野進三序 元文四年己未四月十九日）

與小川三異字序（與小川三異字序 元文庚申十一月）

送竹内茂昆帰庄内序（送竹内茂昆帰庄内序 寛保壬戌四月朔旦）

送藤田通志帰大垣序（送藤田通志帰濃州大垣序 延享乙丑六月）

跋火葬辨（跋火葬辨論）

跋脫然說（跋脫然說 正徳壬辰夏五月）

跋無情辯（記無常辨筆記後 正徳三年癸巳七月十日）

跋養子辨（跋養子辨 正徳乙未孟夏）

跋妙字說（跋妙字說 正徳丙申六月）

跋加藤氏簡（跋加藤氏簡 己亥九月十四日）

記野田徳勝丈居喪說後（記野田丈居喪說後）

跋尚齋先生與増山侯書（跋尚齋先生與増山侯書 享保甲辰之夏）

跋平山季好簡（跋平山季好簡 享保庚戌九月廿日）

記利実公讀史論後（記利實公讀史論後 辛亥六月二日）

記蟲災考後（記蟲災考後 享保壬子冬）

跋後藤氏論說（跋後藤氏論說 壬子十二月）

跋大道寺氏簡（跋大道寺氏簡 癸丑十一月）

跋永井行達論嬰子御製（跋永井行達論嬰子御製 乙卯閏三月）

記川野氏自警文後（記川野氏自警文後）

跋榎並正固簡（跋榎並正固簡）

書久米氏論說之後（書久米氏論說之後）

跋武井勝始簡（跋武井勝始文）

跋天木時中簡（跋天木時中簡 元文丙辰十月十八日）

記吉川崇廣文武筆記後（書吉川崇廣文武劄記後 寛保壬戌九月）

『迂齋文集 四』

迂齋先生文集卷之四

書

與見的（與見的書 正徳壬辰仲呂月）

與或人（與或人）

與出淵守行（與出淵守行 乙未孟冬晦日）

答榎並正固（答榎並正固 享保戊戌孟冬）

上佐藤先生（上佐藤先生 戊戌閏月）

與出淵守行（與出淵守行 庚子六月十九日）

與松平仲生（與松平仲生 享保乙巳十一月）

與佐藤就正（與佐藤就正 享保丁未十月廿三日）

答金澤修軒（答金澤修軒 享保甲寅二月）

上三宅先生（上三宅先生 享保丙辰四月）

答三宅先生（答三宅先生）

答藥袋氏（答藥袋宴樂 元文丁巳四月廿六日）

答平野直道（答平野直道 元文戊午二月）

答味池直好（答味池直好）

答長野氏（答長野氏 壬戌四月三日）

答吉武法命（答吉武法命 延享甲子夏）

答浦野種智（答浦野種智 延享乙丑冬日）

答長野氏（答長野氏）

答平野直道（答平野直道 延享丁卯之秋）

『迂齋文集 五』

迂齋先生文集卷之五

贈答

與小杉左生（與小杉左生 正徳六年丙辰二月二十九日）

與或人（與或人 丙辰四月十八日）

示武井勝始（示武井勝始 享保二年丁酉）

示諸生（示諸生 享保三年戊戌中春）

與一學者（與一學者 戊戌四月）

示一門生（示一門生）

示林逸八 二（示林逸八 享保三年戊戌五月）

（示林逸八）

答大関氏（答大関氏）

示石黒尚義（示石黒尚義 享保戊戌十月）

與東氏（與東氏 戊戌冬日）

與林逸八（與林逸八 享保四年己亥三月十日）

與時田國正 二（與時田國正 己亥四月十一日）

（與時田國正）

與渡邊半七（與渡邊半七 己亥六月）

與石黒尚義 六（與石黒尚義 享保四年己亥六月廿一日）

（示石黒尚義 己亥七月十一日）

（示石黒尚義 己亥八月二十四日）

（示石黒尚義 己亥八月廿八日）

（示石黒尚義 己亥九月）

（與石黒尚義 己亥九月）

與武井勝始（與武井勝始 己亥九月二十二日）

示中村團生 四（示中村團生）

（示中村團生）

（與中村團生 己亥十月朔日）

（与中村團生 己亥十月二日）

示石黒尚義 二（示石黒尚義 己亥十月）

（示石黒尚義 己亥十月廿七日）

與加藤氏（與加藤氏 享保己亥）

示武内弘篤 六（示武内弘篤 享保五年庚子正月）

（示武内弘篤）

（示武内弘篤）

（示武内弘篤）

（示武内弘篤 庚子）

（示武内弘篤 庚子）

示久米貞固（示久米貞固 庚子）

與船橋生（與船橋生 庚子）

答石黒尚義（答石黒尚義 享保五年庚子）

（示石黒尚義 享保五年庚子）

（與石黒尚義 庚子）

示忠豐丈（示忠豐丈）

與中村團生（與中村團生 庚子）

示林逸八（示林逸八 享保庚子）

與渡邊半七（與渡邊半七 享保五年庚子）

示二三子（示二三子 享保六年辛丑正月）

示諸生（示諸生）

與榎並正固（與榎並正固）

與吉武法命 二（與吉武法命）

（與吉武法命）

與榎並正固（與榎並正固）

與堀欣吾 二（與堀欣吾 享保七年壬寅十一月廿七日）

（與堀欣吾 享保八年癸卯孟春）

示潮田氏 二（示潮田氏 享保九年甲辰夏六月九日）

（與潮田氏）

與或人（與或人 享保十年乙巳正月廿一日）

答久米貞固（答久米貞固 享保十年乙巳十二月廿四日）

示一學士（示一學士）

答或人（答或人）

示一學生（示一學生）

與一學士（與一學士）

示諸生（示諸生）

與一学徒（與一學士）

（示諸生）

（示一學徒）

與堀丈（與堀丈 享保十四年己酉十月）

（與堀丈）

與鈴木左門次（與鈴木左門次 享保十五年庚戌十一月）

與齋藤貞志（與齋藤貞志 享保十八年癸丑孟秋日）

與石黒尚義（與石黒尚義 元文四年己未夏五月朔旦）

與男正信（与男正信 寛保改元辛酉夏四月）

與幸田丈（與幸田丈 寛保改元辛酉夏五月）

與或人（與或人 寛保二年壬戌三月）

與鵜澤喜内（示鵜澤喜内 寛保二年壬戌七月）

與正信（與正信）

與厚齊（與厚齋 寛保三年癸亥四月）

與男正信（與男正信 延享二年乙丑八月）

示興津義信（示興津義信 延享三年丙寅之夏）

諭男正直（諭男正直 延享四年丁卯七月）

諭男正信（諭男正信 延享四年丁卯七月下旬）

『迂齋文集 六』

迂齋先生文集卷之六

雜著

為学説（為学説 正徳辛卯仲呂日）

答友部安崇辯為学説（答友部安崇辯為学説 正徳辛卯十一月）

初学蓁蕪辯（初学蓁蕪辯 正徳五載乙未八月）

（享保丙辰仲秋直方跋）

（享保癸卯春三月 記初学蓁蕪辯後）

『迂齋文集 七』

迂齋先生文集卷之七

雜著

榎秀武記事（榎秀武記事 正徳五年乙未三月三日）

祭先君子文 二（祭先君子文 享保辛丑正月十三日）

（祭先君子文 享保辛丑十一月十日）

利益侯遺事（利益侯遺事 享保甲辰四月廿四日）

出淵守行叙事（出淵守行叙事）

祭沢一盲人文（祭澤一盲人文）

祭出淵守行文（祭出淵守行之靈文 享保丁未八月廿四日）

先君子遺事（先君子遺事 元文三年戊午冬十一月十日）

少君遺事（少君遺事 元文五年庚申九月）

渋谷君記事（渋谷君記事 寛保元年辛酉春三月）

祭三宅先生文（祭三宅先生文 寛保二年歲次壬戌春正月廿九日己丑）

源夫人碑銘（順善院源夫人碑銘 寛保二年壬戌冬十一月日）

榑原正甫墓表（榑原正甫墓表）

利延侯碑銘（利延侯碑銘 延享元年甲子八月日^マ）

『迂齋文集 八』

迂齋先生文集卷之八

雜著

讀書漫記（讀書漫記 凡二十六通）

（戊戌三月）

（享保戊戌十一月朔日）

（戊戌十二月十八日）

（己亥八月）

（己亥九月廿五日）

（享保乙卯十二月十四日）

（享保癸丑冬）

（享保癸丑十一月）

（享保癸丑十一月）

（壬戌秋）

（延享乙丑十月朔旦）

〔※他、見出しなし〕

讀太極西銘二解跋（讀太極西銘二解跋 享保丙辰）

戒一學士（戒一學士）

喜見君父師（喜見君父師 享保丁酉孟春三日）

喻愚俗（喻愚俗 享保戊戌仲春）

有感悟記（有感悟記 享保戊戌十二月十七旦）

己亥自警（自警 己亥六月）

讀四教要論（讀四教要論 己亥八月）

論大学白鹿洞揭示（論大学白鹿洞揭示）

觀器物有感（觀器物有感）

實理說（實理說）

庚子有感悟（有感悟 庚子）

庚子有感悟書（有感悟書 庚子）

立春有感（立春有感 享保己酉臘月十八日）

書男鉄児小学書之後（書男鉄児小学書之後）

辛亥自警（自警 享保辛亥臘月十八日）

雪夜歌并序（雪夜歌并序 享保壬子冬）

讀和漢事始（讀和漢事始 元文丁巳秋）

迂齋先生文集卷之九

雜著

論藤原仲光之事（論藤原仲光事 正徳壬辰仲秋日）

温泉説（温泉説 正徳乙未中夏）

見經説（見經説 享保改元丙申八月）

中字説（中字説 享保己亥四月十四日）

榜学舎（榜学舎 享保辛丑春）

復姓文并詩（復姓文并詩 享保壬寅二月）

誌久米氏館亭（誌久米氏館亭）

盈科堂記（盈科堂記 享保甲辰春三月）

題唐津書窓柱（題唐津署窓柱 甲辰之夏）

讀論衡刺孟論陳仲子章（讀論衡刺孟論陳仲子章）

君臣之義説（君臣之義説）

答或人（答或人）

答或人（答或人）

答或問為学筆記（答或問為学筆記）

讀通書勢章（讀通書勢章）

見寒山集（見寒山集）

見伊勢物語（見伊勢物語）

論四十六士之奉上杉家不発徒之事（論四十六士之奉上杉家不発徒之事）

答四不出日之問（答四不出日之問）

禁倡家俳優説（禁倡家俳優説）

戒矜説（戒矜説）

必変説（必変説）

葬埋説（葬埋説 乙巳七月廿四日）

追書（追書）

論易序古太極古河圖（論易序古太極古圖書 戊申五月廿五日）

誠意之説（誠意之説 享保壬子七月）

題中村氏之團（題中村氏之團 戊午七月廿二日）

讀張子全書（讀張子全書）

答或人祝予壽（答或祝予壽 寛保癸亥孟夏日）

示諸友（示諸友）

見困知記（見困知記）

見淮南子（見淮南子）

狗上屋説（狗上屋説 延享丙寅四月十八日）

見北條五代記（見北條五代記 延享丁卯夏）

見潮艸（見湖艸 丁卯九月）

戲題煙艸（戲題煙艸）

辯議變化氣質說（辯議變化氣質之說 延享丁卯冬）
諭家人（諭家人）

『迂齋文集 十終』

迂齋先生文集卷之十

雜書凡三十七條（雜書凡三十七條）

（乙未孟春月）

（正徳乙未春月）

（享保丙申九月廿二日）

（享保丁酉十月）

（享保戊戌正月）

（戊戌孟春）

（享保戊戌）

（戊戌季秋六日）

（享保戊戌十二月廿八日）

（己亥七月十三日）

（己亥七月望）

（己亥七月望日）

（己亥八月）

(己亥八月十四日)

(己亥十月三日)

(己亥十月十日)

(庚子)

(庚子)

(庚子)

(庚子)

(庚子)

(庚子)

(庚子)

(庚子十二月)

(壬寅)

(享保壬寅十二月十一日)

(享保乙巳十一月廿三日)

(享保丁未九月六日)

(享保戊申春)

(享保戊申初秋日)

(享保己酉九月十四日)

(享保己酉閏九月)

(享保己酉閏九月廿三日)

(享保庚戌十一月廿一日)

(享保乙卯歲十二月廿六日)

「※他、見出しなし」

右家大人文集初稿凡十卷其文稿之不_レ存者不_レ可_二追索_一僅存者蠹于故篋既數十年正信兄弟竊恐_二其終廢壞以不_レ傳因謹錄_レ之以藏_二于家_一云

延享戊辰之春男正信謹識

『迂齋別集 附録 全』

迂齋先生別集目錄

迂齋先生別集

書齋側之柱 (書齋側之柱)

讀祭祀來格說筆記 (讀祭祀來格說筆記 延享丁卯秋七月)

跋隱微說 (跋隱微說 享保二年丁酉七月)

記與正直聖學圖之後 (記與正直聖學圖之後 享保十七年壬子閏五月)

與正直 (與正直 寬保壬戌正月)

記訓門人割記後 (記訓門人割記後)

答中村義方 (答中村義方)

答野澤弘篤（答野澤弘篤）

示諸友（示諸友 享保丁未四月）

答正信疑目（答正信疑目 乙丑丙寅）

答或人 四（答或人）

（答或人）

（答或人）

（答或人）

祭先君子文 大祥（祭先君子文 大祥 享保七年壬寅十一月十日）

禪祭文（禪祭文 壬寅十一月廿三日）

少君忌日詩（少君忌日詩）

少君忌日詩并序（少君忌日詩并序 享保戊申正月十九日）

拜直方先生文（拜直方先生文 享保壬寅八月望日）

直方先生記事（直方先生記事）

先君子小祥之明日自警（先君子小祥之明日自警 辛丑十一月）

利延侯之誌石（利延侯之誌石）

上利實侯 四（上利實侯 享保辛亥十二月十四日）

（對利実侯之間 庚戌十一月二十二日）

（上利實侯 享保乙卯仲夏下旬）

答金澤脩軒（答金澤脩軒 庚戌十一月二十二日）

答或人（答或人）

與或人（與或人）

與井上生（與井上生）

與永尾生（與永尾生）

與一學生（與一學生 庚子冬）

與鷹見生（與鷹見生）

答出淵生（答出淵生 己亥八月）

與岡野生（與岡野生）

記武内弘篤酒箴後（答武内弘篤酒箴之後）

與石黒尚義（與石黒尚義）

與久米貞固（與久米貞固）

記岡野氏文之後（記岡野氏文之後 癸卯十二月）

答藥袋宴樂（答藥袋宴樂）

與或人（與或人）

答或人（答或人）

答或人（答或人）

書水江孫市筆記之後（書水江孫市筆録之後 延享丁卯八月）

答或人（答或人）

示一門生（示一門生）

答或人（答或人 戊午秋）

書正信文字後（書正信文字後）

題鏡（題鏡）

題浮貼（題浮貼 延享丁卯歲二月朔旦）

跋壺石碑（跋壺石碑）

漫記（漫記 丁卯秋八月十八日）

跋永井丈文（跋永井丈文 寛保改元辛酉八月十九日）

跋天木氏書（跋天木氏書 延享乙丑四月八日）

讀書漫記（讀書漫記）

（享保辛亥七月十七日）

（享保辛亥十二月）

（乙巳四月九日）

（享保己亥八月廿八日）

（享保甲寅孟春）

（寛保壬戌秋八月）

（寛延戊辰冬）

（寛延戊辰冬十一月）

〔※他、見出しなし〕

與久米貞固（與久米貞固）

答或人（答或人）

答正信（答正信）

過筑州姪濱憶亡友澤一（過筑州姪濱憶亡友澤一）

肥州崎即事（肥州濱崎即事 戊申四月）

賡山宮君新歲之韻 二首（賡山宮君新歲之韻 壬子）

（又）

雨後會學友（雨後會學友 甲寅二月）

游原邸園即事（游原邸園即事 甲寅四月三日）

四月四日游龜井戸（四月四日游龜井戸）

見一樹有感（見一樹有感）

（偶感）

臘月九日聞雪漫成（臘月九日聞雪漫成）

試毫（試毫 癸卯）

玄海漫成 二首（玄海漫成）

（又）

唐津示諸生（唐津示諸生）

筥根湖水漫成（筥根湖水漫成）

吉原瞻富士（吉原瞻富士）

奉和利實侯雪後高韻（奉和利實侯雪後高韻）

游原邸之園中即興（游原邸之園中即興 辛亥十月二十三日）

暑中偶感（暑中偶感）

憶学友（憶学友 戊申歳）

冬日偶作（冬日偶作）

次山宮君之韻（次山宮君之韻）

答藥袋氏（答藥袋氏 元文戊午五月十日）

雜記（雜記）

（辛巳歳）「※内容から考えて「辛丑歳」の誤りであろう。」

（享保丁未三月）

（享保丁未四月）

「※他、見出しなし」

答野澤生 二（答野澤生 享保丁未三月廿一日）

（答野澤生近思録謝湜自蜀之京僦条之間 丁未）

因兒病偶作（因兒病偶作 丁未）

與武井敬勝生（與武井敬勝生 元文戊午三月）

與潮田郷生（與潮田郷生 元文戊午三月）

答吉川道元（答吉川道元 壬戌）

書三瓶氏筆記之後（書三瓶氏筆記後 戊申十二月）

答野沢生（答野沢生 享保丁未五月廿二日）

上利実侯（上利実侯 甲辰十月十四日）

上利実侯（上利実侯 丁未）

答多田氏（答多田氏問 甲辰）

謝惠寒梅（謝惠寒梅 甲辰十二月）

麿長谷川某之韻（麿長谷川某之韻 甲辰）

與出淵生（與出淵生 甲辰三月）

答吉武團（答吉武團 甲辰四月）

與時田乙三郎（與時田乙三郎 享保甲辰閏四月三日）

顯妣諱日（顯妣諱日 甲辰春）

麿合田氏韻（麿合田氏韻 甲辰）

書三宅先生答或人書後（書三宅先生答或人書後 甲辰六月望）

答土岐時習（答土岐時習 甲辰六月廿八日）

呈天木時中（呈天木時中）

誌德子棺蓋（誌德子棺蓋 享保十九年甲寅七月五日）

（誌鳥山氏蒞女棺蓋 享保廿年乙卯八月廿四日）

常徳院武井婦人小傳（常徳院武井婦人小傳）

示正信（示正信 九月二日）

答正信（答正信）

喪禮不可不素講説（喪禮不可不素講説）

書武井主守書後（書武井主守書後 己亥冬）

迂齋先生別集附録

迂齋答問

『迂齋續集 一二三四 終』

迂齋先生續集目錄

迂齋先生續集卷之一

戊辰之歳凡十通

與正直信（與男正直信 延享戊辰五月）

送竹内茂菟歸庄内序（送竹内茂菟歸庄内序 延享戊辰六月）

送仲淵甫適姫路序（送仲淵甫適姫路序 寛延改元戊辰秋八月）

上利里侯文并詩（上利里侯文并詩 寛延戊辰九月）

祭妹政女文（祭令妹政女文 寛延戊辰秋九月下旬）

鈴木氏小傳（鈴木氏小傳 寛延戊辰冬十月）

澤一小傳并跋（澤一小傳并跋 寛延戊辰十月）

記澤一小傳後 寛延戊辰冬）

答正信（答正信）

示正信（示正信 寛延戊辰閏十月廿日）

答児等并新婦（答児等并新婦 戊辰臘月廿九日）

迂齋先生續集卷之二

乙巳之歲凡二十八通

諭學者（諭學者 寛延二年己巳正月昨旦）

元旦江戸橋即興（己巳元旦江戸橋即興）

見老子経（見老子経 寛延己巳春）

見二十四孝（見二十四孝 寛延己巳春二月）

奉送利里侯序（奉送利里侯序 三月五日）

示默齋（示默齋）

見年中故實（見年中故實 己巳四月）

與土州執政福岡孝紀（與土州執政福岡孝紀 己巳孟夏望）

病中偶作二首（病中偶作二首 己巳五月）

（又）

病中漫記（病中漫記 寛延己巳夏五月）

與大木剛中字序（與大木氏字序）

與水江孫市（與水江孫市 己巳夏日）

與曲直瀬良仙（與曲直瀬良仙 寛延己巳六月）

記廓齋之柱（記廓齋之柱 寛延己巳六月）

答福岡孝紀（答福岡孝紀 寛延己巳八月十六日）

奉次横渠先生之韻（奉次横渠先生之韻）

喜友人東訪即興（喜友人東訪即興 九月三日）

生靈死靈論（生靈死靈論 己巳秋九月）

遊東海寺二首（遊東海寺二首 九月十日）

（又）

望亡友服部守義舍（望亡友服部守義舍）

拜服部守義之墓（拜服部守義之墓 十月四日）

讀岩淵夜話（讀岩淵夜話）

送關戸氏歸唐津序（送關戸氏歸唐津序 寛延二年己巳十一月五日）

與鵜澤近義（與鵜澤近義 寛延己巳十一月）

與猪瀬藤吉（與猪瀬藤吉 寛延己巳之冬）

答明石要（答明石要）

（答明石要）

（答明石要）

（答明石要）

觀池亭記（觀池亭記 寛延己巳冬）

答平野直道（答平野直道）

迂齋先生續集 卷之三

庚午之歳凡三十二通

容膝堂記（容膝堂記 寛延庚午春）

與各務氏（與各務氏 寛延庚午春）

春日即興（春日即興 庚午）

遊四谷中野桃園（庚午二月望與武井猪瀬二生遊于四谷中野桃園 庚午二月）

遊忍岡（二月廿日與武井氏遊忍岡）

與南條氏字序（與南條氏字序 寛延庚午二月廿八日）

讀列女傳漫記（讀列女傳漫記 寛延三年三月五日）

跋薩摩守忠度之歌（跋薩摩守忠度之歌）

讀平家物語（讀平家物語 寛延庚午四月）

送或人歸東序（送或人歸東序 庚午初夏）

示一門生（示一門生 庚午孟夏日）

送仲淵甫歸厩橋序（送仲淵甫歸厩橋序 寛延庚午夏五月望）

見武藏野風（見武藏野風 寛延庚午夏五月）

送男正信適日光山序（送男正信適日光山序 庚午五月二十五日）

日光山詩（日光山詩五首 庚午夏日）

利延侯遠忌（利延侯遠忌 寛延庚午七月十六日）

讀小学有感書齋壁（讀小学有感書齋壁 寛延庚午七月）

與正信君臣之義說（與正信君臣之義說 寛延庚午八月）

記深艸元政壁書後（記深艸元政壁書後 寛延庚午十月廿日）

答村士行藏卜筮說（答村士行藏卜筮說 寛延庚午十月）

答村士行藏中國説（答村士行藏中國説 庚午冬十一月）

答村士行藏神道説（答村士行藏神道説 庚午十二月）

與武井氏守序（與武井氏字序 寛延庚午十一月望）

（與猪瀬氏字序 寛延庚午十二月）

與原氏字序（與原氏字序 寛延庚午十二月）

記井上感通詩倭歌後（記井上感通詩倭歌後 寛延庚午冬十二月）

題達磨畫（題達磨畫）

戲書正信扇（戲書正信扇）

尚志齋記（尚志齋記 庚午獵月）

跋剛齋厩戸説（書厩戸辯説後 寛延庚午冬）

喜多川婦人小傳（喜多川婦人小傳 寛延庚午冬十二月）

讀忠經（讀忠經 寛延庚午十二月）

迂齋先生續集 卷之四

辛未歲凡三十一通

立春（立春）

正月二十日先妣諱辰（正月二十日先妣諱辰）

答村士行藏（答村士行藏 辛未正月）

遊龜井戸（遊龜井戸 二月十二日）

看臥龍梅（看臥龍梅）

詣羅漢寺（詣羅漢寺）

訪故新婦順女之墓（訪故新婦順女之墓 二月十八日）

上利里侯（上利里侯 寛延四年三月廿四日）

送芹澤氏（送芹澤氏）

答村士行藏（答村士行藏 辛未四月十一日）

遊相州詩 二十首（遊相州詩 二十 寛延辛未四月）

竊賡横渠先生韵（竊賡横渠先生韻）

書佐藤先生文後（書佐藤先生文後 辛未六月）

中村逸齋記事（中村逸齋記事）

漫記（漫記 辛未閏六月）

答或人（答或人 辛未七月）

曾根氏字序（曾根氏字序 寛延辛未七月）

望品川海邊（望品川海邊 九月三日）

東海寺即興（東海寺即興）

御殿山眺望（御殿山眺望）

示諸生（示諸生）

感偶 二首（感偶）

（又）

諸齋壁示二三子（諸齋壁示二三子）

與長尾氏（與長尾氏 寛延辛未冬）

跋佐藤先生真跡（跋佐藤先生真跡 寛延辛未秋）

跋永井行達録後（跋永井行達録後 寶曆改元辛未十一月十二日）

告多田氏令郎名之説（告多田氏令郎名之説 寶曆改元辛未十一月廿七日）

讀枕草子（讀枕草子 寶曆改元辛未十一月十三日）

與正信（與正信）

示二三子（示二三子 寶曆改元辛未十二月廿一日）

見三先生説（見三先生説 寶曆改元辛未十二月）

『迂齋先生卒年文稿』

題先君子卒年文稿

先君子之書

文集 十卷

續集 四卷

別集 一卷

雜稿 三卷

和書集 五卷

續和書集 五卷

學話 二十八卷

在_レ世時既編次焉而固未_レ脱_レ稿也今編_二卒年文稿_一為_二一卷_一又類_二集學話附錄若干卷_一以旁載
四方門人小子之善知_二先君子_一而信_レ之之醇者讀_レ焉可也

庚辰冬 男 正信謹書

先君子卒年文稿目錄

先君子卒年文稿 男 正直 訂 男 正信 輯

病中漫記凡九道（病中漫記凡九道）

〔※第一、見出しなし〕

（第二 正月十七日）

（第三 正月二十一日）

（第四 正月二十一日）

（第五 二十三日）

（第六 二十七日）

（第七 庚辰二月二日）

（第八 二月二十六日）

（第九）

跋中山氏再嫁説（跋中山氏再嫁説 五月十二日）

新屋落成題柱（新屋落成題柱 實曆庚辰五月七日）

與和久田生（與和久田生 五月）

題齋壁（題齋壁 五月）

題柱（題柱）

示正直（示正直 寶曆庚辰五月二十三日）

稲葉圓齋記事（稲葉圓齋記事 五月二十二日）

完倉氏名説（完倉氏名説 寶曆庚辰秋七月）

應一書生之需書（應一書生之需書凡四通 庚辰七月）

名孫女説（名孫女説 庚辰七月）

録野田徳勝語（録野田徳勝語 庚辰七月）

病中漫筆凡六道（病中漫筆凡六道）

〔※第一、見出しなし〕

（第二 九月二十六日）

（第三）

（第四 庚辰十月七日）

（第五）

（第六）

十月即興（十月即興 十一日）

永訣揮筆凡七道（永訣揮筆凡七道）

〔※第一、見出しなし〕

（第二）

（第三 十月十四日）

(第四)

(第五) 十月十七日)

(第六) 十月十四日)

(第七) 寶曆庚辰十月)

酬長谷川生(酬長谷川生 寶曆庚辰十月念一日)

示二兒(示二兒 十一月朔)

易寶語錄 凡五條(易寶語錄 十一月九日)

先君子在_レ世以_三講_レ學誨_二諸生_一為_レ任得_レ疾廢_二講會_一有_レ日每以為_レ恨既沒未_レ日家弟正信編_二卒年文稿_一讀_二之喪次_一又授_二一二門人_一示_二平素講學之任以_レ疾不_レ衰相共勉勵云

宝曆十年冬 男正直 謹識